

宝生会 春の別会能 第二部

平成三十一年三月二十四日(日)

開演 十六時
開場 十五時十五分
於 宝生能楽堂

演目の解説

能「草紙洗」(そうしあらい)

宮中で歌合せの会があり、その前日小野小町は「水辺の草」という題に浮かんだ歌を短冊に書き入れようとしていました。一方、歌合せの相手に定められた大伴黒主は、小町に勝つ自信がないので、小町の邸に忍び込み、歌を聞き取り、万葉集にその歌を書き加えて歌会に臨みます。翌日、披露された小町の歌を、黒主は万葉集にある古歌と言い張り草紙を小町の前に突き付けます。よくよく草紙を見た小町は不自然な墨付きに気づき、草紙を洗うと文字は流れて消え失せ、自害しようとする座を立つ黒主を呼び止め、小町も疑いが晴れて舞を舞います。

狂言「富士松」(ふじまつ)

無断で富士詣に出かけた太郎冠者を叱るため、主人は太郎冠者の家へ行きます。詫びる太郎冠者を許すと、富士から取ってきた富士松を見せるように言います。冠者は人から預かった松なので見せるだけとしますが、一目見た主人は富士松が欲しくなり、あれこれ提案しても冠者に断られます。機嫌を損ねた主人は富士の酒を振る舞われると、今度は連歌の付け合いをして、付けられなければ富士松をとると強引に連歌を始めます。冠者は富士松を守るでしょうか。

能「道成寺」(どうじょうじ)

紀州道成寺の鐘再興の日、女人禁制という触れがありました。一人の白拍子が能力を説得して供養の場に入ります。女は烏帽子を着けると乱拍子という特殊な舞を舞い、僧達が眠った隙に鐘に対する執心を見せ、鐘の下に入ったかと思う間に鐘を落として姿を消します。僧がこの寺と鐘にまつわる恐ろしい出来事を語り、鐘に向って祈ると、引き上げられた鐘の下に蛇体となった女が現れ、僧と戦いますが、最後は日高川に飛び込んでしまいます。恋慕執心を描いた名曲。

16:00

草紙洗

貫之 東川 光夫
子方 野月 惺太
シテ 當山 孝道
立衆 小倉健太郎

ワキ 森

常好

大鼓 亀井
小鼓 住駒

実 匡彦

笛 藤田朝太郎

間 能村 晶人

後見

田崎 隆三
大友 順

地謡

金井 賢郎
金野 泰大
金森 隆晋
亀井 雄二

小倉 敏克
高橋 章
前田 尚廣
山内 崇生

17:30

富士松

野村 萬

野村 万蔵

18:10

道成寺

シテ 佐野 弘宜

ワキ 大日方 寛

大鼓 亀井
小鼓 田邊

洋佑 恭資

太鼓 徳田 宗久
笛 藤田 貴寛

〈 休憩 十五分 〉

ワキツレ 則久 英志

” 御厨 誠吾

間 野村 万蔵
” 野村 万之丞

後見

佐野 由於
金森 秀祥

地謡

辰巳 和磨
藪 克徳
渡邊 茂人

藤井 雅之
金井 雄資
辰巳満次郎

鐘後見

宝生 和英

野月 聡
小倉伸二郎

和久莊太郎
川瀬 隆士

次回予告

秋の別会能 第二部

十月二十七日(日)

午後四時始

天

前 小倉 敏克
後 佐野 由於

呼出 盤渉

鼓

前 小林与志郎
後 前田 尚廣

鞍馬天狗

天狗揃

文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

